

駒ヶ根市文化財

名称	東伊那遺跡
種別	史跡
指定	市・史跡(昭和 45. 4.24)
所在地	東伊那 伊那耕地
所有者	駒ヶ根市
説明	<p>東伊那遺跡とは、天竜川左岸の段丘上に伊那山脈の山麓にかけて展開する山田遺跡(縄文時代中期)・丸山遺跡(縄文時代中期・弥生時代後期)・狐久保遺跡(弥生時代後期)・殿村遺跡(縄文時代早期末期から前期初頭・中期、弥生時代後期、奈良時代から平安時代)の 4 つの遺跡の総称である。</p> <p>昭和 24 年から 26 年(1949～1951)にかけて発掘調査が行われ、山田遺跡より縄文時代中期の竪穴式住居址 6 軒、丸山遺跡より縄文時代中期と弥生時代後期の竪穴式住居址が各 1 軒ずつ、狐久保遺跡から弥生時代後期の竪穴式住居址が 4 軒、殿村遺跡からは平安時代初期の竪穴式住居址 1 軒が発見され、高地から低地へと集落が移り変わったことがわかった。</p> <p>この発掘は学術調査であり、戦後間もないこの時期に一村(旧伊那村)が巨費を投じて行った画期的なもので、その熱意には頭が下がるものである。</p> <p>その後昭和 39 年(1964)に狐久保遺跡の一面に東中学校が建設され、その折にさらに弥生時代後期の竪穴式住居址が 12 軒発見されている。</p> <p>昭和 63 年(1988)には、殿村遺跡が県営ほ場整備事業の対象区域となり、遺跡の大半は埋め土による現場保存を図ることとし、一部について発掘調査を行っている。調査の結果は縄文時代早期末から前期初頭の良好な土器群が確認され、該期の竪穴式住居址が 12 軒、同中期の竪穴式住居址が 9 軒確認、弥生時代では後期の竪穴式住居址 3 軒と同時期の方形周溝墓が 3 基、奈良時代から平安時代の竪穴式住居址 16 軒と各時期に土壌(どごう)が多数確認された。</p> <p>また山田遺跡においては、住宅建設に伴う発掘調査が平成 4 年に実施され、縄文時代中期の竪穴式住居址が 5 軒発見された。遺跡は広範囲にわたるが、東中学校の北、狐久保遺跡の一面を市の史跡として保存して、当遺跡から発見された弥生時代後期の竪穴式住居址が復元されている。</p>
	 <p>狐久保遺跡の復元住居</p>